



学校統合に関する活発な意見が交わされた森地区住民説明会（2/1・森小体育館）

学校統合構想・計画を策定 望ましい学校規模を目指す

では、児童生徒に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康や体力」を育んでもらおうと、児童生徒数の動向や地理的条件などを十分に検討し、望ましい学級編成と学校規模の実現を目指した「登米市学校統合構想」の基本方針をまとめました。この構想は、目標年次を平成27年度とし、前期5年（18～22年度）と後期5年（23～27年度）に分けて学校の統合を進めていく内容となっています。

前期については、「登米市学校統合実施計画（以下統合計画）」を定めて、小規模化した学校の中でも児童数が極めて少なく複式学級を余儀なくされている小学校や、児童数が100人を下回り小規模化の著しい小学校の統合を進めます。後期では、望ましい学校規模を実現するために、旧町域を中心とした小学校の統合を進めて、現在の半数程度にする構想となっています。

また、小・中学校の併設による連携や小・中一貫校についても有効な選択肢としており、地域の実態などを踏まえた検討を進めていきます。

5年間で27小学校を22校に 中学校との併設も

前期の5年間に実施する統合計画の中では、児童数の減少で複式

学級を実施している小学校や、小規模化の著しい小学校の統合を具体的に進めていきます【図】。

■東和町域

嵯峨立小と錦織小、鱒淵小と米川小を平成20年度までに統合します。

【嵯峨立小】

現在、全学年が複式学級編成になっています。今後も児童数の増加は見込めません。

【錦織小】

現在、2、3年生が複式学級編成になっています。児童数は22年度まで減り続けて49人になり、23年度は56人まで増えますが、その後の増加は見込めません。

《嵯峨立小・錦織小統合校》

校舎は平成3年に建設した錦織小を使用します。嵯峨立小と統合しても、教室数や施設設備上の問題はありませんが、通学距離が4kmを超える嵯峨立小の児童もいることから、スクールバスの運行が必要です。

【鱒淵小】

現在、全学年が複式学級編成になっています。今後も児童数の減少が予想されます。

【米川小】

23年度までに現在の66・3%、69人まで児童数が減少し、かろうじて複式学級にならない状態で推移していきますが、1～5年生の1学級が10人前後になります。

■追町域

新田第一小と新田第二小を平成20年度までに統合して、新田中の敷地内に併設します。また、森小と佐沼小を22年度に統合します。

【新田第一小】

児童数は、5年後には現在の77・4%の103人となり、1学年を除き、各学年とも20人以内になります。校舎は耐震上の問題からプレハブの仮設校舎での学校生活を余儀なくされており、一日も早い教育環境の整

備が求められています。

【新田第二小】

5年後には現在の児童数の78・3%の54人になり、10人以内の学年が多く複式学級になる心配があります。

《新田第一小・新田第二小統合校》

学校統合をしたとしても望ましい学校規模の確保が難しく、それを補完するためには中学校との併設が必要となります。また、通学距離が長くなる児童が増えるため、スクールバスの運行が必要です。

【森小】

児童数は、18年度は74人ですが23年度には69人に減少し、小規模化が一段と進みます。1学級当たりの児童数も8人から18人で、児童数の動向によっては複式学級になる心配があります。校舎は昭和53年に建設されたもので、大規模改造が必要です。

【佐沼小】

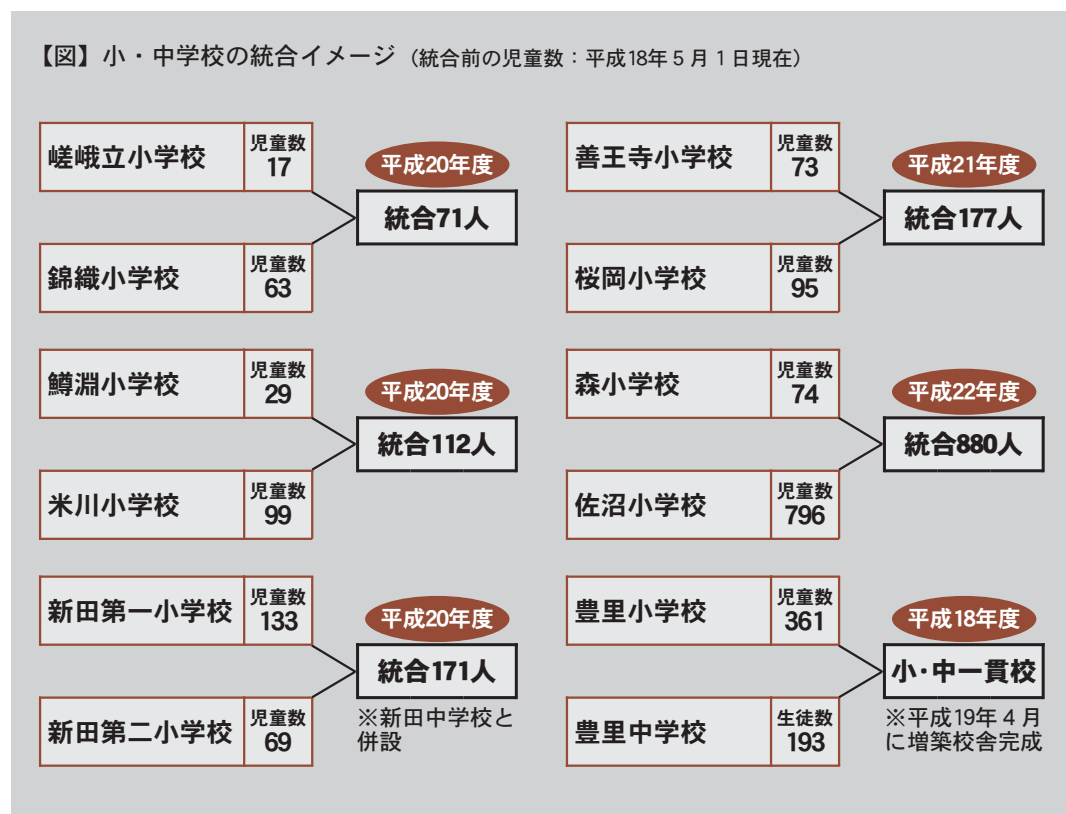
児童数の推移を見ると、平成元年前後の10年間は920人を超える児童数でした。18年度は796人、24学級となっていますが、今後もほぼ横ばいの状態が続きます。

《森小・佐沼小統合校》

佐沼小については、将来も望ましい学校規模を維持することができません。しか

《鱒淵小・米川小統合校》

校舎は平成11年に大規模改造した米川小を使用します。統合しても、教室数や施設設備上の問題はありませんが、通学距離が4kmを超える鱒淵小の児童もいることから、スクールバスの運行が必要です。



なお、4校が統合して2校になった場合でも、望ましい学級数を大幅に下回ることが予想されます。このため、学校統合構想の後期においては、今後の児童数の推移を見ながら再編成が必要かどうかの検討をすることとしています。

し、森小は児童数の推移から小規模化が進行しますので統合が必要であり、地理的な条件などから佐沼小との組み合わせによる統合が適当といえます。

《善王寺小・桜岡小統合校》

児童数は統合によって22年度まで増えますが、その後の増加は見込めません。児童数は1学級24人から36人になり、基本となる20人から30人を多少超えますが、その後の児童の減少を考えれば適当だと思われま

す。校舎は平成8年に大規模改造した桜岡小を使用します。統合しても、教室数や施設設備上の問題はありま

せん。しかし、通学距離が4kmを超える善王寺小の児童もいることから、スクールバスの運行が必要です。

■米山町域

善王寺小と桜岡小を平成21年度までに統合します。

【善王寺小】

児童数は、23年度に現在より11人減少します。その場合、1学年7人から13人の学級となり、児童数の動向によっては複式学級になる心配があります。

【桜岡小】

統合の対象になっている小学校では、唯一児童数が増える見込みのある小学校ですが、それでも1学級で20人に達しない学年があります。

児童生徒の将来を最優先 地域住民とともに計画を

統合計画を進める小学校の保護者や地域住民を対象に、市では昨年から住民説明会を実施しています。説明会では、それぞれ長い歴史がある学校の統合について、さまざまな意見や要望などがあり、地域皆さんの学校に対する思いや願いが伝わってきます。しかし、児童生徒の将来を考えた場合には、望ましい学校規模を実現させ、良好な教育環境を築くことが最も優先されるべきことではないでしょうか。

今後も地域の皆さんの理解を得ながら、統合に向けた計画を進めていきます。

【学校統合に関する問い合わせ】

教育委員会教育総務課
☎0220(34)2670